



第97回

私のスケッチブック

「トマス・ベケット殉教の大聖堂」

カンタベリー／イングランド南東部（イギリス）



イングランド地方の南部には歴史的に重要な町が幾つか点在し、その一つがカンタベリーです。古くはケルト人からローマ帝国に支配されて、要塞が構築された城郭都市。

601年にアウグスティヌスが初代カンタベリー大司教に就任し、以来この地がイングランドのキリスト教の中心地となります。そして1164年に大司教トマス・ベケットは、時の国王ヘンリー2世と裁判権問題で対立し、大聖堂祭壇で国王の騎士達によって暗殺。時のローマ教皇アレキサンドルは彼を殉教者として聖人に列し、この地は聖トマス・ベケットの殉教の地となり、カンタベリー詣と呼ばれて多くの巡礼者が押し寄せて繁栄します。

また、1387年にジェフリー・チョーサーが「カンタベリー物語」を書き上げて名を馳せます。さて、どのような話？ 14世紀のカンタベリー大聖堂への巡礼者が

旅の途中で色々な職業や身分の人達が知っている話を語り合った内容を続けた物語。イタリアのボッカッチョが書いた「デカメロン」に類似していると云われますが…。

そして1534年ヘンリー8世の離婚話からローマ教皇と対立。認める？ 認めない？ から…ローマ教会から離脱し、カトリックと絶縁。エリザベス1世の時に統一令で大主教となり、イギリス国教の総本山となります。現在の英国国教は管区制度が敷かれ、その下部組織は多くの主教区に依って構成され、主たる2大管区はカンタベリーと共にヨークに在って、大聖堂が建てられています。

歴史はさて置き！ロンドンのヴィクトリア駅から2時間弱で訪れる事が出来るため手軽な小旅行に最適です。ヴィクトリア・コーチステーションからも定期観光バスが出ていますから「世界で最も可愛い城」と呼ばれるリーズ城や「ホワイト・クリフ」で有名なドーバーの旅も一緒に楽しめます。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。
2018年開催「第69回 全国カレンダー展」に10度目の入選を果たし、その実力を発揮する。
<http://www.urban.ne.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

検索